



WHAT'S NEW

3月28日(土) 京都にて
第11回京滋難治性皮膚疾患検討会が開催されました

京都テルサにて、「肉芽腫性皮膚疾患」をテーマにした検討会が開催され、木村鉄宣が「肉芽腫性皮膚疾患の臨床と病理組織像」と題した特別講演を行いました。その後、京都医科大学皮膚科の浅井純先生によるミニレクチャー、事前に募集された症例検討会が行われました。



たくさんのご参加ありがとうございました。



業績紹介

第108回 日本皮膚科学会総会 発表演題のご紹介
札幌皮膚病理研究所が関わった演題が4例発表されました。
演題と抄録の一部をご紹介します。

<virtual (Digital) slideとVirtual microscopeの機能と利用法>

木村鉄宣

<顆粒細胞腫 (Granular cell tumor)の臨床および病理組織学的検討>

古賀佳織、木村鉄宣、伊東慶悟、宮下 文

<Unna型色素細胞精母斑 (Unna母斑)の全体構築と表皮変化—病理組織学的検討>

曾和順子、小林裕美、石井正光、木村鉄宣 (大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学と協同)

<Infundibulocystic basal cell carcinoma with sebaceous differentiationの1例>

岡本 武、木村 鉄宣 (自衛隊横須賀病院皮膚科と協同)

顆粒細胞腫 (Granular cell tumor)の 臨床および病理組織学的検討

古賀佳織、木村鉄宣、伊東慶悟、宮下 文
(札幌皮膚病理研究所)

2001年1月から2008年6月の間に、札幌皮膚病理研究所で顆粒細胞腫(GCT)と病理診断した73症例(74病変)について臨床的事項を検討した。さらにそのうち標本の再検討が可能であった29病変のGCTについて病理組織学的事項の検討を行った。病理診断依頼書をもとに検討した臨床事項では、女性にやや多く、切除時の平均年齢は45.4歳であった。発生部位は、躯幹が約40%で最も多かった。臨床診断で顆粒細胞腫と診断された症例はなかった。切除標本のHE染色標本を用いて検討した病理組織学的事項では、基本所見である豊富な細胞質内に好酸性の顆粒を有する腫瘍細胞で構成される結節状の病変であることを確認し、病変の存在部位、表皮変化、病変内にあるリンパ球の結節状浸潤の有無、そして腫瘍細胞の神経周囲の分布や核内の偽封入体の有無について検討した。

virtual (Digital) slide と Virtual microscopeの機能と利用法

木村鉄宣
(札幌皮膚病理研究所)

Virtual slide と Virtual microscope の機能

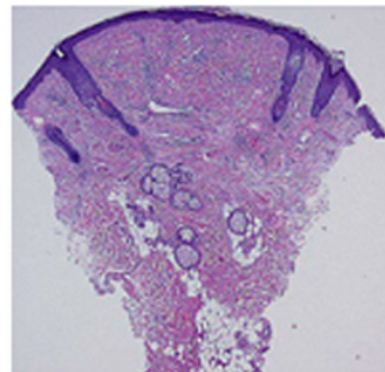
ガラス標本をスキャンすることで病理組織像をデジタル化した Virtual slide を作成し、パソコンを顕微鏡として利用できる時代が来た。Virtual slide と Virtual microscope があれば、好きな場所で病理組織像の検討やJPEG画像の作成ができる。Virtual slide では HE 染色や免疫染色の色や、標本の破損・紛失の心配はなく、複製が容易である。そして画像の倍率や角度の任意変更、大きさや面積の計測、また病理所見などのコメント記入が可能だ。Virtual microscope には顕微鏡の機能とともに写真撮影機能もあり、ルーペ像や、任意の大きさの組織画像を作成することができる。

Virtual slide と Virtual microscope の利用法

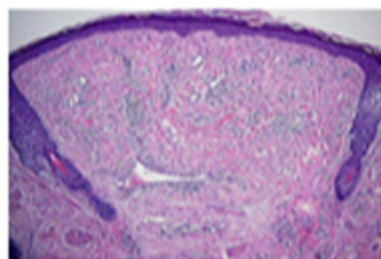
この新しいシステムは、教育分野では学生の病理学実習や皮膚病理の系統教育用標本、そして診療分野では遠隔病理診断や臨床病理検討会、そして電子カルテと連結して利用されている。学術分野では、CPC や各種セミナーでの症例検討に利用されている。最近では各種画像解析ソフトによる研究分野での利用も始まっている。

今月の症例

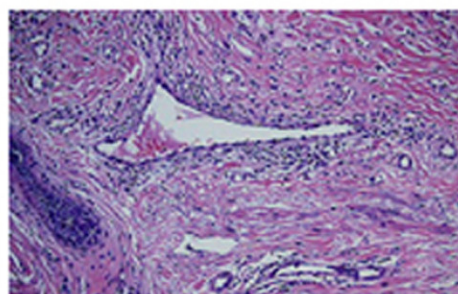
61才、女性 生検部位：頬 臨床診断：血管腫（頬）
病理組織診断：Rosacea, telangiectatic stage



真皮上層の小血管が拡張している。その周囲には炎症性細胞浸潤を伴っている。



著明な血管拡張がある。右側の毛包周囲にも炎症がある。



拡張した小血管の周囲にはリンパ球を主体とする炎症性細胞が浸潤している。弾力線維には日光による変性 (solar elastosis) がある。

今後の活動 2009年開催セミナーのご案内

参加お申込 受付中!

皮膚病理講座 基礎編

(第9回：東京会場) (第10回：神戸会場)

「病理用語と各種皮膚疾患の病理組織像の解説」
＜専門医試験前に知識の整理をしたい方の参加に最適です。過去問も解説します＞

東京会場 2009年5月16日(土) 10時～17時
5月17日(日) 9時～16時
慶應義塾大学(新宿区信濃町35番地)

東京会場 開催直前まで受付中!!

現在、当日使用するスライドや
ハンドアウト資料を事前公開中です。

神戸会場 2009年7月19日(日) 10時～17時
7月20日(月祝) 9時～16時
神戸大学(神戸市中央区楠町7丁目)

「皮膚病理が苦手」

「興味があるがどう勉強していいかわからない」

「皮膚病理の指導法を知りたい」

という皮膚科医と病理医の皆様役に立ちます。

第2回 皮膚病理講座 診断編 (東京会場)

「皮膚病理診断への第一歩」

日時 2009年11月22日(日) 10時～17時
11月23日(月祝) 9時～16時
会場 慶應義塾大学(新宿区信濃町35番地)

- ・各種皮膚疾患の病理組織像を理解する。
- ・皮膚病理診断学の3要素、診断基準項目、診断のてがかり、そして鑑別診断を具体的に把握する。
- ・「絵あわせ診断法」のために必要な病理組織像を覚え、「パターン分類とアルゴリズム分析診断法」を理解する。

開催日1ヶ月前までのお申込で参加費10%引き

セミナーの詳細はホームページで

<http://www.sapporo-dermpath.com/seminar/seminar-info2009.html>

主催：Ackerman記念札幌皮膚病理研究所

今後の予定

2009.7.10-13 第4回日本・豪州合同皮膚科学会 於：北海道大学学術交流会館
Topix 講演 <Dermatopathology up date>

1. Poroma, 2. Myopericytoma, 3. Xanthogranuloma, 4. Acquired melanocytic nevus on the sole, and 5. Prurigo multiforme chronica and Papulo-erythroderma(Ofuji)

学会の詳細はホームページからどうぞ

<http://www.derm-hokudai.jp/jpn-aus/index.html>

発行：札幌皮膚病理診断科

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842

e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com> 編集担当：高野 敦子